

平成 27 年度 「聴講生科目一覧」

<学科・専攻名：人間生活学科 こども発達専攻>

NO	科目名	担当者	開講時期	授業形態	授業のねらい（内容）
1	日本文化史	佐藤智広	前期	講義	日本の歴史と文化を学びながら、日本に住む者の精神構造を考える。なぜブログやツイッターが流行るのか、なぜ装飾が好きなのか、といった身の回りのことがどこに根ざしているのかを考え、受講生がそれぞれに自分なりの文化史観を持てるようにする。
2	人間学	大原あゆみ	前期	講義	先人達の思索によって生み出されてきた様々な「ことば」を手がかりとしながら、現代社会に生きる私たちにとって切実なテーマについて丁寧に考察する。その際、哲学的な議論と私たちの身近に生じている諸問題とを密接に関連づけながら、より具体的に考えていきたい。
3	現代社会の課題：生活環境	梁井貴史	前期	講義	温暖化やオゾン層の減少などの地球規模の環境問題から、ごみの問題など私たちの身近な環境問題の科学的な知識を得ると同時に、その解決策を考察する。
4	教養数学	田中正夫	前期	講義	自然や社会の事象を理解したり考察したりするとき、数学的な知識や考え方は有用である。幼児は日常の生活のなかで数量や図形についての感覚を身に付けていくので、幼稚園教諭や保育士は数学の基本を理解し、基礎的な技能を身に付けておくことが必要である。本授業では、数学的な教養を高めるとともに、幼児教育者として必要な数学の基本的な知識

					や技能を養うことをねらいとする。
5	衣生活論	板垣昌子	前期	講義	現代社会における衣服の意味と、生活の中の衣服の役割や衣服と人間の関わりを考え、人体、衣服材料、構成、管理、消費の各分野から、衣生活についての理解を深め、豊かで快適な衣生活のあり方を考える。また、こどもたちの健全な成長や発達に沿った衣生活のあり方などについても考察する。
6	社会的養護	中川秋美	前期	講義	昨今では、家庭の養護機能が衰え、社会的養護に依存せざるを得ない場合が増えている。本授業では、社会的養護の意義、歴史的変遷、法制度、実施体制を知り、社会的養護の原理と施設養護などの実際を理解することをねらいとする。
7	家庭支援論	中川秋美	前期	講義	家庭は子どもにとって最も大切な環境である。この授業では、家庭の意義とその機能、子育て家庭を取りまく現状、福祉施設の現状などを把握し、子育て家庭の支援体制やニーズに応じた多様な支援の展開と関係機関との連携について理解することをねらいとする。
8	保育原理	本蔵達矢	前期	講義	「子どもがかわいい！」と思うことは、保育をする上での原動力になるかもしれない。しかしながら、それだけでは実際に「専門家」として保育をすることはできない。「保育原理」においては、保育に関わる法律や歴史、実際の保育現場での取り組みなど、保育の専門家としての知識と考え方について講義する。
9	子育て支援論	本蔵達矢	前期	講義	保育者の役割は保育をすることだけではない。保育以外の大きな役割の一つとして「子育て支援」がある。

					子育て支援論では、子育て支援はなぜ必要なのか、現在の日本の子育て支援の動向について、実際にどのような子育て支援が行なわれているのかを学ぶことがねらいである。
10	幼児体育	伊坪有紀子	前期	演習	幼児期の運動は、体の発達のみならず脳や心の発達にとっても極めて重要である。幼児期における運動あそびの重要性と発達段階に応じた指導法について学び、安全性を配慮しながら子どもの年齢にあわせた多様な動きによる遊び方を、環境・状況に合わせて自ら実践しながら学習する。
11	発達と健康	伊坪有紀子	前期	演習	少子化時代を迎え、より大切になっている子どもたちだが、子どもを取り巻く様々な問題が起きている。子どもの健やかな成長にとって必要となる健康的な生活や発育発達に対する知識を得て、受講者が主体となって、子どもを取り巻く諸問題について考察し、発表・討論を行い、今後の課題を探る。
12	障害児保育 I	高橋あき子	前期	演習	障害の概念と障害児保育の現状について理解する。また、障害児や特別な支援を要する子どもに係わる基礎的事項及び保育について理解する。
13	社会福祉	渡邊浩文	前期	講義	保育士・社会福祉専門職として必要となる社会福祉の基本的視点および知識を身につける。社会福祉の歴史、方法、法制度などの学習を通じ、現代社会における社会福祉の仕組、意義、社会福祉専門職の役割・機能等について理解する。
14	子どもと文学	佐藤智広	前期	演習	保育者としての技能に資するよう、文学作品の中でも特に児童文学を通して、子どもと文学との関係について

					て考えていきたい。これまで高い評価を得ている著名な作品をできるだけ多く取り上げ、先行研究をふまえつつ、新たな読みを考えていきたい。
15	日本語表現	佐藤智広	後期	講義	様々な日本語の表現方法を学び、大学生としてふさわしい日本語表現力を身につける。見落としがちな誤った表現、しゃべりことば、誤字脱字といった基本的なことを習得し、その後、まとまった分量の文章で、自分の考えを述べられるようにする。手紙のような敬体文にも習熟する。
16	現代社会の課題：高齢者福祉	中川秋美	後期	講義	急激な少子高齢化の中で、将来にわたって持続可能な社会保障制度になっているのか。また、一人暮らしの認知症高齢者になっても安心した老後を過ごせるのか。この講義では、今日的課題である高齢者福祉について、介護保険制度を中心に制度・政策と個人の高齢期の日常生活実態の両面での理解を深めることを目指す。
17	心理学	中川秋美	後期	講義	心の仕組みや働きを知ることで、日々の生活の中で生じる人間関係のストレスに関しての自己洞察力を高め、トラブルに対してより客観的な判断力を養うことが期待できる。健康な心のあり方を保つための考え方や生活の工夫、周りで起こっている問題の分析方法などについても学習し、人間関係に関する理解や洞察を深める。
18	日本国憲法	棟久敬	後期	講義	日本国憲法のなかで、教職において特に必要な分野の基本的な知識を理解してもらうために、条文の意味などについての解説を行います。そのうえで、理解をさらに深めてもらう

					ために、憲法に関する身近な事例や問題を紹介したいと思います。
19	現代社会の課題：消費生活	宮坂順子	後期	講義	私たちは生活に必要なモノやサービスの多くを貨幣で購入し、消費して生活している。それはしばしば生活の安全や豊かさが脅かされることにつながる場合がある。消費者問題・消費者法の基本的な知識を学び、自立した消費者とは何かを考える。
20	科学の世界	蓮沼良一	後期	講義	どのように地球上に生命が誕生したのか。地球誕生から生命の誕生、単細胞生物から多細胞生物、海から陸へ、魚からヒトへ、進化の経路をたどり、人間とはどのような生物なのかを考え、人類の環境との関わりや今後の方向性を考察する。ヒトの発生から老化、脳、遺伝子など人体についての生物学的な知識を学ぶことをねらいとする。
21	保育の心理学 I	本蔵達矢	後期	講義	子ども一人ひとりの行動や心の動きはそれぞれ異なるが、共通する部分も多い。保育の心理学 I では、そうした子どもの行動や心の動きの中にある共通した部分を学ぶことがねらいである。この授業においては、子どもに共通した行動や心の動き、行動や心の動きの見取り方について講義する。
22	幼児理解（カウンセリングを含む）	本蔵達矢	後期	講義	保育における計画・実践・省察を行なうときには、それぞれの子どもがどう発達しているのかなどを見取っていかなければならない。幼児理解（カウンセリングを含む）では、そうした子どもの見取り方についての知識や技術について学ぶ。
23	保育内容：健康	伊坪有紀子	後期	演習	子どもが子どもらしい健やかな生活をおくるため、健康的な習慣や態度

					を身につけることが望ましい。乳幼児における健康の基礎知識を学ぶとともに、保育者はどのように子どもの健康をとらえ、援助していくことができるのかを学び、保育の現場で実践できる知識と考え方を学ぶ。
24	児童家庭福祉	高橋あき子	後期	講義	児童家庭福祉とは子どもと家庭に関する幅広い課題に、住民と専門職、関係機関が連携し、法律や制度などの社会資源を活用しながら取り組む、すべての子どもの最善の利益を護るための実践である。その意義と歴史、現状と課題、制度や実施体系、人権擁護、動向や展望について学習する。
25	教育心理学	三輪聡子	後期	講義	本講義で、乳幼児期～児童期の発達と学習を援助するために必要な、教育心理学に関する基礎知識・視点を身につける。また、それらの知識を利用し、目の前の問題状況に応じた方策の提案を可能とする、問題解決能力の獲得・向上を目指す。
26	文学と文化	佐藤智広	後期	演習	保育者としての技能に資するよう、文学作品の中でも特に児童文学を通して、子どもと文学との関係について考えていきたい。また、そうした作品から生み出された児童文化について考察し、自らの制作姿勢や子どもに対する指導のあり方を身につける。